

大雨や台風に備えましょう

気象情報に注意して早目の防災対策・避難行動を

これからの時期は、梅雨前線の発生や台風接近の影響で、大雨、洪水、暴風による自然災害が発生しやすい季節となります。

普段から洪水、土砂災害について、家族や近所の人と話し合い、いざというときは防災気象情報を活用し、早めの防災行動をとるようしましょう。

大雨による災害は

全国で毎年発生

近年、これまでに経験したことのない集中豪雨や、台風の大化によって、全国各地で大雨、洪水、暴風などによる被害が発生しています。

とくに傾斜の急な山や川が多い日本では、前線や台風による大雨により、崖崩れや土石流、川の氾濫などが発生しやすく、人々の生命が脅かされるような自然災害が、毎年のように発生しています。

こうした災害を防ぐため、国や県、市では砂防設備の整備や河川の氾濫を防止するための治水工事など、ハード面で様々な



奥田洞谷土砂崩壊

防災対策を実施してきましたが、自然の脅威を抑えることは困難です。

被害を最小限に抑えるためにも、自らが対策を講じ、減災対策に取り組みましょう。

ハザードマップで身の回りの危険箇所を確認

市では土砂災害警戒区域等を表示した「土砂災害ハザードマップ」と、浸水想定区域を表示した「洪水ハザードマップ」を作成し、対象地区に全戸配布を行っています。

ハザードマップには、土砂災害が発生する危険性のある区域（土砂災害危険箇所・土砂災害警戒区域など）や河川が氾濫した場合に浸水が予想される区域、避難場所、避難所が示されています。また、岐阜県では、お住いの地域周辺の土砂災害のおそれのある箇所が、郵便番号や住所検索等により確認できるサイト、「ぎふ山と川の危険箇所マップ」を公表しておりますので、ご利用ください。

URL: <https://kikenmap.gifu.jp>

これらの情報を確認し、災害が発生したときに、自分がどう行動するのか、また災害時には「自らの命は自らが守る」という意識を持ち、適切な行動を取

りましょう。

危険な場所にいる人は

原則避難

新型コロナウイルス感染症が収束しない中でも、災害時に危険な場所にいる人は、避難することが原則です。

知っておくべき5つのポイント
①避難とは「難」を「避」けること。

安全な場所にいる人まで避難場所に行く必要はありません。

②避難先は、小中学校・公民館だけではありません。

安全な親戚・知人宅に避難することも考えてみましょう。

③マスク・消毒液・体温計は持参しましょう。

④事前に避難する場所を確認しておきましょう。

⑤豪雨時の屋外の移動は車も含め危険です。やむを得ず車中泊をする場合は、周囲の状況等を十分確認しましょう。

災害発生時の

情報伝達手段

市では、災害等の発生や避難情報が発表された際には、市民のみなさんの安全確保のため、緊急情報を様々な手段で発信します。また、災害発生時は情報

が錯綜し、通信混雑が発生する場合がありますので、テレビ、ラジオなど複数の手段による情報入手先を確認しておきましょう。

防災行政無線・戸別受信機

市では屋外拡声設備（スピーカー）や戸別受信機を整備しており、一度に多くの方へ情報を伝えます。

緊急速報「エリアメール」、緊急速報メール

災害発生時等の通信混雑の影響を受けずに、携帯電話で市や気象庁などから文字情報を受信することができます。緊急速報「エリアメール」、緊急速報メールは、各携帯電話会社が提供するサービスとなります。

郡上市メール配信サービス

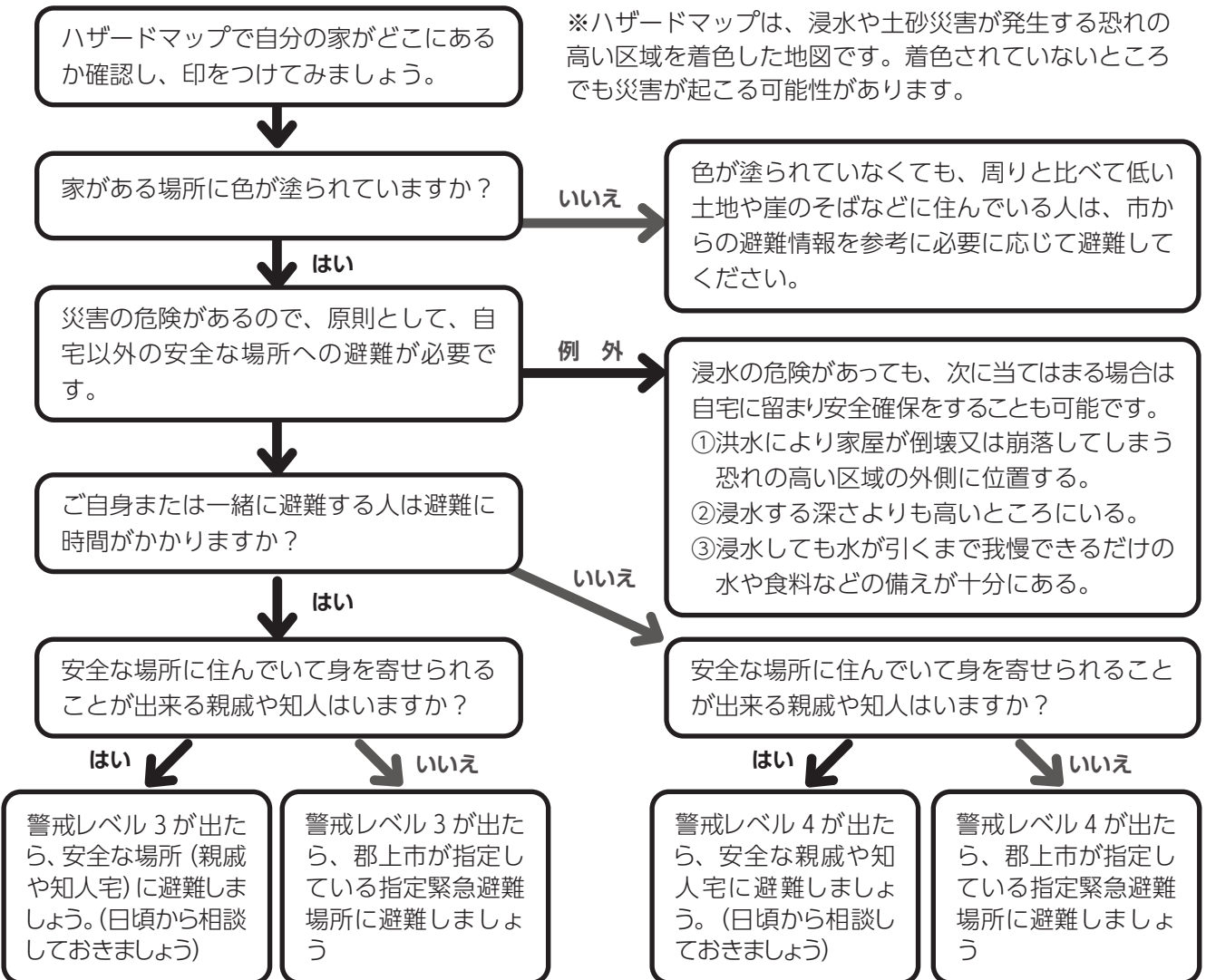
防災情報や緊急情報などを配信しています。



登録は、t.gujio@sg-m.jpにメールアドレスを送信することも登録作業へ進むことができます。

避難行動判断フロー図

あなたが取るべき避難行動は？



参考：内閣府防災ホームページhttp://www.bousai.go.jp/oukyu/hinankankoku/h30_hinankankoku_guideline/index.html

非常用持出品の例

事前に準備しておきましょう

- 水
- 食品（ご飯（アルファ米など）、レトルト食品、ビスケット、チョコ、乾パン など（最低3日分用意）×人数分
- 防災用ヘルメット・防災ずきん
- 衣類・下着
- レインウェア
- 紐なしの靴
- 懐中電灯
- 携帯ラジオ
- 予備電池・携帯充電器
- マッチ・ろうそく
- 救急用品（ばんそうこう、包帯、消毒液、常備薬など）
- 使い捨てカイロ

- 軍手
- 洗面用具
- 歯ブラシ・歯磨き粉
- タオル

感染症対策にも有効です

- マスク
- 手指消毒用アルコール
- 石けん・ハンドソープ
- ウェットティッシュ
- 体温計

一緒に持ち出そう

- 貴重品（通帳、現金、パスポート、運転免許証、病院の診察券、マイナンバーカードなど）

※この他にも、子どもや高齢者のいる家庭などの実情により、必要なものが変わってきます。

